



「いきものログ」の活用について

環境省自然環境局生物多様性センター 調査科



見つけよう！ 調べよう！ つながろう！
生物情報収集・提供システム

いきものログ

いきものログとは？

<http://ikilog.biodic.go.jp>



今、人気の生きもの

報告者ランキング

- 目黒太田さん 1234件
- bioholicさん 6789件
- 通報者さん 123件

お知らせ
自然環境調査に参加しよう！

アイコン
いきものログアプリ

コンテンツ

- 生物情報を検索する
- 生物情報を報告する
- 生物情報を学習する
- みんなの貢献に参加する
- 団地で活動する
- 団地・日本林調査を見る
- 富士山周辺情報を見る
- 環境省の調査を見る

環境省が管理している生物調査データのほか、地方自治体や専門家、市民など、全国の様々な団体や個人が管理するデータを登録して共有化し提供するウェブシステムである。また、「いきものログ」では様々な主体が市民参加型調査を実施することができる。「いきものログ」は様々な主体がそれぞれに管理してきた生物情報を統合し共有化すると共に、身近な自然に目を向け、生物多様性の重要性について考えるための情報交流の場となることを目指している。センターでは今後「いきものログ」をわが国の生物多様性データを総合的に管理する基幹システムとして位置づける。

生物多様性データの共有化

「いきものログ」運用の主眼の一つは、様々な団体や個人が別々に管理している生物多様性データの共有化である。自然環境保全基礎調査やモニタリングサイト1000など、生物多様性センターが実施した調査結果のデータが記録されているほか、環境省をはじめとする国の機関・都道府県・市区町村・研究機関・専門家・市民等が管理する生物多様性データを記録し共有することができる。



例えば、都道府県が管理する質の高い膨大な生物多様性データを、「いきものログ」を活用して共有化し一元的に運用することにより、各都道府県は都道府県境を越えたシームレスなデータを得ることができ、ひいては全国の生物多様性データを共有化する効果が期待される。これらのデータはデータベースに一元的に管理されており、ウェブサイトで検索し閲覧、ダウンロードすることができる。データベースのフォーマットにはGBIF(地球規模生物多様性情報機構)でも採用されている標本、観察データの標準交換形式であるダーウィンコアを採用しており、各主体が管理するデータを国際的にも活用することができる。また、地図表示機能を利用することによって、生物の分布情報をわかりやすく表示することが可能なほか、ダウンロード機能では、CSV形式をはじめ、GISソフトで表示可能な形式でのダウンロードもできる。

検索結果(地図)

条件を指定する

詳しい条件を指定する

場所を指定する

検索結果

全150278件

表示方法を変更する

全217件から1000件までを以下の形式でダウンロードする。

CSV形式

KML形式

SHP形式

地図表示画面

いきものログを利用した市民参加型調査の実施

生物多様性の調査

「しおかぜ自然環境調査」では、東日本大震災の影響があったと考えられる自然環境や地域を中心に、そこに生息・生育する固有生きものやのび殖生動物を調査する。また、調査範囲を広く全国とすることで、対象種の全国的な変化状況についても把握できる。情報の収集には、いきものログの機能を活用し、全国にわたって生物多様性情報の蓄積が期待される。

報告と詳細はこちら>

条件を指定する

詳しい条件を指定する

検索結果

表示方法

調査対象種15種

しおかぜ自然環境調査

～東日本大震災の影響把握のための市民参加型調査～

しおかぜ自然環境調査は、「いきものログ」の機能の一つである市民参加型調査の機能を利用し、東日本大震災の生物への影響を把握するための市民参加型調査である。しおかぜ自然環境調査では対象種15種が設定されており、写真と名前、見つけた日付と場所を「いきものログ」に投稿することで、ウェブ上に「生きもの地図」が作られる。投稿に必要な情報があれば震災前の生物情報の投稿も受け付けており、震災影響があったと考えられる地域を中心に、調査範囲を広く全国とすることで、震災影響を把握するとともに、調査対象種の全国的な変化状況についても情報の蓄積が可能である。蓄積された情報は、しおかぜ自然環境調査の調査ページで検索・閲覧することができるほか、「いきものログ」に蓄積されている生物情報とともに検索することができ、生物情報の確認年月を絞り込むことで震災前後の生物情報を比較することが可能である。

調査対象種15種

市民参加型調査機能の活用提案

「いきものログ」の市民参加型調査の機能を活用すれば、環境省だけでなく、その他の国の機関・都道府県・市区町村・研究機関・専門家・市民等が独自に市民参加型調査を実施することができる。「いきものログ」では専門家や愛好家等ある特定のグループ構成員のみによる調査を実施することも可能であり、実施者は独自にカスタマイズできる調査ページを「いきものログ」内に設置することができる。この機能を活用すれば、広く調査への参加を呼びかけられるのはもちろんのこと、調査結果と「いきものログ」に登録済みのデータとを比較することで、調査対象種の分布の変遷を追うことも可能である。それらの結果は外来種防除等の施策に役立てることが期待されるほか、自治体が行う生物調査のツールとしての活用も期待される。

表示方法

調査対象種15種

アライグマを例に、2000年以前と、2000年以降を含むデータを比較すると、アライグマの確認された市区町村が拡大していることがわかる。